



表-6.12.2(4) 代表的な注目種の生理・生態・生活史 (その3)

視点	注目種	生理・生態・生活史
<p>典型性</p>	<p>アマアイゴ</p> 	<p>スズキ目アイゴ科。15cm。 伊豆半島以南に分布。サンゴ礁域の海草藻場に生息。 産卵は4～7月の新月の日の上げ潮かつ日の出時。幼魚は旧暦5～8月の大潮上げ潮時に接岸後、4～5日で体色変化し、プランクトン食性から藻類食性に移行。満1年で成魚に成長し、産卵。 雑食性で、主に海草やサンゴ礁に生育する藻類が主食。 沖縄では幼魚をスクと称し、塩漬として利用。水産有用種。</p>
	<p>ハゲブダイ</p> 	<p>スズキ目ブダイ科。30cm。 大隈諸島以南に分布。成魚はサンゴ礁の礁池から外側礁斜面までの広範囲に生息。琉球列島では最も数の多いブダイ科の一種。 幼魚はラップモク群落でベラ類と混成群を形成。 4～8月の小潮満潮直後からグチや礁の外縁の流れの速いところで産卵。色彩変化とともに性変換する。夜は粘液マユの中で眠る。小型藻類食性。 沖縄での地方名はアカグチャー・アカナー（雌）、アカルー、プッパガナー（雄） 写真出典：http://hanauma1.com/fish/parr.otfish.htm</p>

出典1：岡村収，尼岡邦夫編(2001) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚。山と溪谷社。783pp.

2：諸喜田茂充編(1988) サンゴ礁域の増養殖 緑書房。341pp.